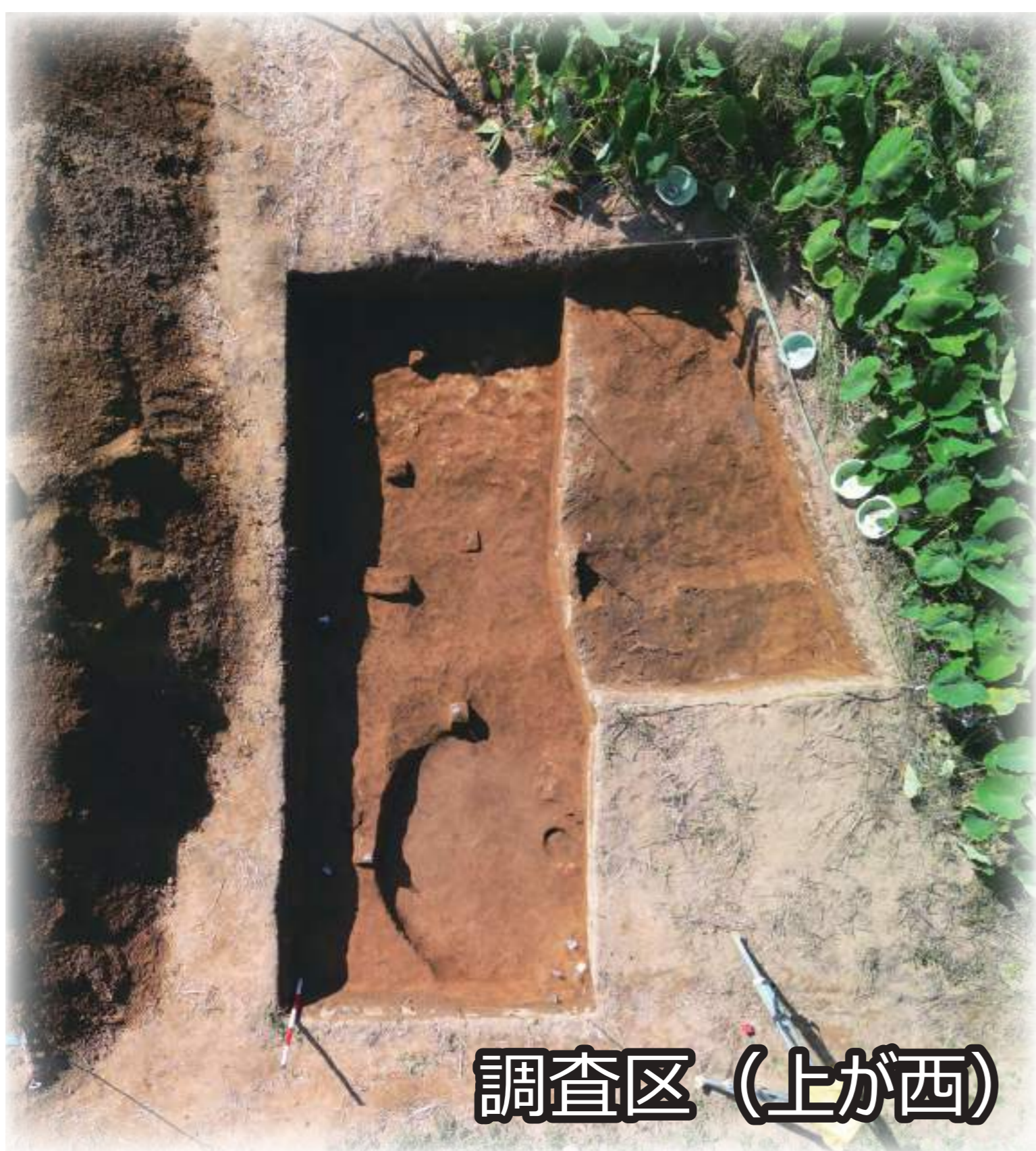




# 旧石器時代から続く石器工房

## ① 一子沢遺跡 (村田町小泉)



村田町東部を流れる新川に面した河岸段丘上にある後期旧石器時代（約 38,000 ～ 16,000 年前）の遺跡です。令和 6 年に東北大学考古学研究室が学術調査を行い、遺跡近くに産地がある玉髓という石材で石器を作っている様子が判明しています。

今回の調査では、新たに縄文時代早期（約 11,500 ～ 7,000 年前）の遺構が見つかり、玉髓を使った石器づくりが続けられているのが分かりました。旧石器時代と縄文時代のつながりと違いを知ることのできる貴重な調査成果です。

旧石器 縄文

弥生

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治



### ▲ 一子沢遺跡出土の縄文時代の石器

半透明の白色や黄色をした玉髄や、灰色の頁岩が使われています。これらを加工した石鏃（狩りに使う矢じり）、搔器（毛皮を加工する道具）、石鏃よりも一回り大きい石槍（槍の先）などが出土しています。



### ▲ 縄文時代早期後半の竪穴建物跡

直径 2m ほどで、中で石器を作っていたかもしれません。

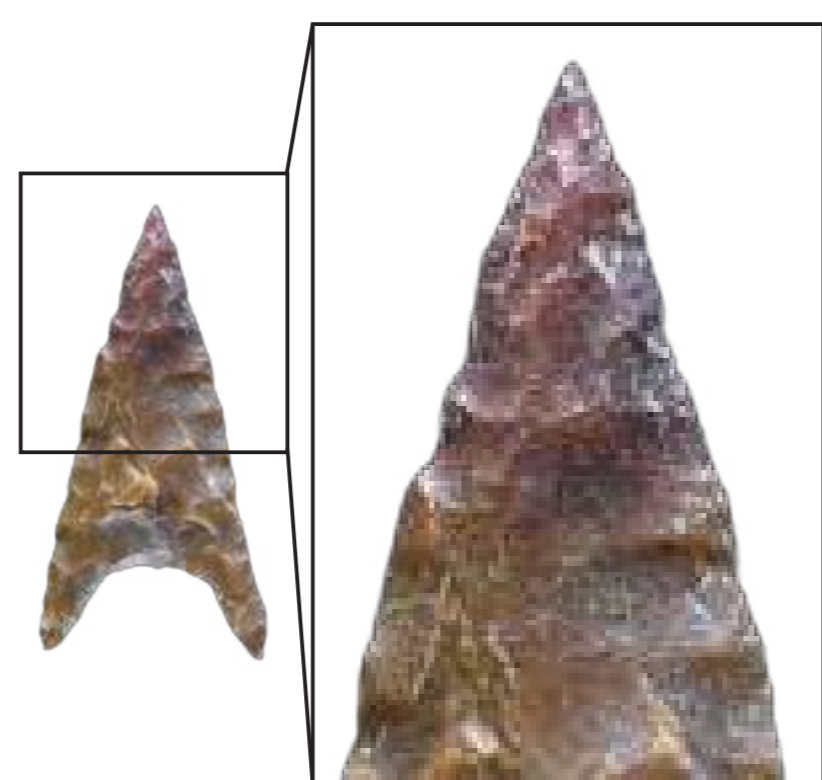


### ▲ 旧石器時代の石器 (R6年出土)

旧石器時代の石器は、玉髄の塊を割り、形を整えないまま使われることもあります。



同じ石材でも、旧石器時代と縄文時代では石器づくりに違いはあるの？



### ▲ 赤く変色した玉髄

玉髄はとても硬い石材ですが、火で熱すると赤く変色して割りやすくなり、石鏃の整形のような細かい加工ができるようになります。これは旧石器時代には行われない、縄文時代ならではの石器づくりの工夫です。

協力：東北大学大学院文学研究科考古学研究室